

3 新たな過疎対策等について

(3) 5月に開催された近畿2府4県議長会で、関西広域連合については、国、広域連合、県の3重行政になるのではないかと、奈良は埋没するしかなく、過疎化は一層進み、行政サービスの低下につながるという懸念を持って、異論を唱えた。関西広域連合についての知事の所見を伺いたい。

(知事答弁)

1 関西広域連合に関しましては、既に述べておる面もありますが、屋上屋を架すことによる意思決定の煩雑化や遅滞、新たな組織の設置による経費の増加などの「組織面での課題」があります。また、わざわざ新しい組織をつくらなくても、広域連携で十分実施できるのではないかと「業務面での課題」があると思っています。

2 また、国の地方支分部局を「関西広域連合」の下に組み入れてはという意見もありますが、権限、責任さらには財源がどうなるか、十分な議論が進まない間に、受け皿づくりだけをする場合には、余計な人や事務だけを押しつけられるなど、非効率な組織になるという懸念もあります。

3 さらに、議員がお述べのとおり『奈良が埋没するのでは』という懸念は、当然あるものと考えております。明治時代の例で恐縮ですが、かつて明治9年奈良県が堺県と合併し、さらに明治14年大阪府と合併したことがありました。その際、明治18年に大変な災害が起りましたが、その復旧予算が奈良地域にほとんど配分されなかったことから、合併解消の運動が起こり、明治20年に奈良県が再設置されたという歴史も思い出されます。奈良県としては、県政発展のため、県の立場・状況を十分踏まえて、オリジナルな戦略を進めていきたいと思っています。

4 「関西広域連合」の設立による成果がよく見えない、また懸念も予想される現時点では、設立当初からの参加は難しいと考えています。今後、同連合が設立された場合には、具体的事例や成果を見て、議会での議論を踏まえ、その時点で慎重に参加するか否かの判断をしたいと思っています。